

一の鳥居建て替え

桑名  
五  
月  
三  
十  
日  
お木曳き  
清

平成27年  
5/31日  
お木曳き  
6/7日  
竣工式



桑名の港 七里の渡し場

室町時代から桑名は、木曾三川上流、伊勢、尾張を結ぶ水陸交通の接点として発展してきた。江戸時代に入り東海道宿駅制度が定められ、江戸から数えて42番目の宿として宮宿への七里の渡し場となった。

七里の渡しルートは島を縫って進みいくつものルートがあったとされ、渡し船は30人から50人乗りの乗り合い船があった。また、桑名宿の旅籠屋は100軒を越し、東海道では宮宿に次いで多かった。

明治に入ると大型の蒸気船が運行し始めたが、桑名港は水深が浅いために隣の四日市港が開発され、明治10年以降移出額は四日市港に追い抜かれた。海上交通は四日市に譲ったが、河川交通は依然活発で上流の大垣、岐阜、笠松との定期航路が開かれていた。

明治27年に関西鉄道の桑名駅が開業し、翌年には名古屋と結ばれたことにより、七里の渡しの渡船も閉鎖された。

七里の渡し場跡付近は水害対策などで整備され、当時の面影は見られないが、堤防の外側に立ってみると河川交通、尾張、伊勢を結ぶ海上交通の要所であったことを感じることができる。



不破直幹氏蔵



お問い合わせ先 / 〒511-8601 三重県桑名市中央町2丁目37  
桑名市観光課 ☎0594-24-1231  
桑名市文化課 ☎0594-24-1361

一の鳥居建て替え

七里の渡し場に初めて鳥居が建てられたのは、天明年間(1781~1789)とされています。現在の一の鳥居は伊勢神宮の宇治橋の外側の大鳥居をもらいうけて建てられており、最近では式年遷宮の都度建て替えを行っています。

第62回の式年遷宮での宇治橋大鳥居の建て替えは平成26年10月3日に竣工式が行われました。



第62回遷宮時の宇治橋と大鳥居 (神宮司廳提供)

七里の渡し場跡にある伊勢国一の鳥居の建て替えは平成27年に次の行事を行います。

■平成27年5月31日(日) 午前 お木曳き行事

桑名市民会館から七里の渡し場跡まで市民参加行事を計画しています。

なお、5月30日には『全国山・鉾・屋台保存連合会総会桑名大会』が桑名市民会館をメイン会場として行われ、両日共に石取祭車を繰り出します。

■平成27年6月7日(日) 午前 竣工式

鳥居建て替え事業にあたり

伊勢神宮の遷宮と同じ20年に一度、伊勢国一の鳥居の建て替えが執り行われてきました。鳥居建て替えに伴う諸行事を行い、この鳥居を旧東海道桑名宿のシンボルとして、桑名の歴史・文化ゾーンの拠点とし、育てていきたいと考えています。

本事業を意義あるものとして成功させるため、地元はもとより広く市民の方々のご理解を得ながら進めてまいりますので、皆さまの各段のご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成26年10月吉日

七里の渡し・伊勢国一の鳥居建替実行委員会

- 会長 水谷 景一 (桑名市城下町筋商店街振興組合理事長)
- 顧問 伊藤 徳宇 (桑名市長)
- 顧問 佐藤 肇 (桑名市議会議長)
- 顧問 藤原 隆 (桑名市自治会連合会会長)
- 顧問 横井 敬之 (桑名商工会議所会頭)
- 顧問 水谷 正 (桑名三川商工会会長)
- 他 役員

# 七里の渡し場跡にある 伊勢国一の鳥居 建て替えへ

伊勢国東の玄関口、神と人の心を結ぶこの鳥居は、式年遷宮ごとに、伊勢神宮 宇治橋の鳥居を移して、建て替えられます。

## 七里の渡しはいつできたの？

慶長6(1601)年に、徳川家康により江戸と京都を結ぶ東海道が制定され、桑名宿と宮宿(名古屋市熱田区)の間は東海道唯一の海路として結ばれました。宮の渡しから桑名まで海上七里あったため「七里の渡し」と呼ばれています。

七里の渡し場に鳥居が建てられたのは、天明年間(1781~1789年)と考えられています。鳥居は、桑名の商人の矢田甚右衛門と大塚与六郎が発起人となり、関東地方を廻って寄付を集めて建立されました。当初は、東海道を跨ぐように、道路上に建てていたと伝わっています。また、七里の渡し場跡にある鳥居は「伊勢国一の鳥居」と呼ばれています。これは、東国から来た旅人たちにとって、七里の渡しから桑名に着くと、この鳥居をくぐって伊勢国に入る、東の玄関口にあたるからです。

## 七里の渡し場跡の鳥居は、 式年遷宮ごとに建て替えられるの？

伊勢神宮の宇治橋外側の鳥居が、20年に一度の式年遷宮ごとに桑名市の七里の渡し場跡に運ばれ、建て替えられます。この宇治橋の鳥居は、さらに20年前の式年遷宮で、外宮正殿の棟持柱として使われていた材で建てられており、由緒あるものです。

ちなみに、宇治橋内側の鳥居は西の入り口である、関の追分(亀山市関町)で同様に建て替えられ、こちらは内宮正殿の棟持柱として使われていました。



七里の渡し場跡にある現在の一の鳥居



平成5年の式年遷宮後、平成7年に七里の渡し跡場で一の鳥居が建て替えられる様子



昭和初期の七里の渡し跡  
(昭和9年 伊勢大橋竣工記念の絵はがき集より)

## いつ建て替えられるの？

平成27年5月31日(日)「お木曳き」(神宮から用材が桑名にやってくる奉祝行事)を行い、6月7日(日)に竣工式を予定しています。

また、平成27年5月30日(土)には、「全国山・鉾・屋台保存連合会総会桑名大会」が開催されます。伊勢国一の鳥居を桑名ブランドとして全国にPRし、広めていきます。

伊勢神宮 内宮  
宇治橋の鳥居が

平成27年 七里の渡し場跡へ